



新しい年を迎え、皆さま方の歩まれるロータリーライフに暖かい光が注がれますようにお祈りいたします。

一年の計は元旦にありと申しますが「よし、この一年はロータリーを学び、その真髄を理解するように努力してみよう」と一念発起するロータリアンが1人でも多い事を願って、1月がロータリー理解推進月間にきめられたのだと思います。

ここで、ロータリーの理解を推進するために一筆ということになりますと、「綱領」の解説から始めたくのですが、言葉で説明が出来たからといって、それでロータリーが身に付いたわけではありません。前年度は「ロータリーを身に付けよう」を掲げましたが、身に付くまでロータリーの理解を深めたいものです。

- ・ロータリーには「言行はこれに照らしてから」という判断基準があります。「四つのテスト」です。これを言葉としてはそらんじています。しかしすべてのロータリアンの行動基準が四つのテストに適っているわけではありません。言葉ではそらんじていても、なかなか身に付かないのです。
- ・ハーバート・テラー氏は1932年アメリカ大恐慌の時代に、倒産寸前にあったシカゴのアルミ調理器具会社を再生させるために、「四つのテスト」を創案し、

これを従業員に徹底させることによって立派に会社を再生させました。後にロータリー創立50周年の年、RI会長となった彼の言葉です。

「四つのテストを書いてから約二年経った頃、四つのテストの内容がどうしてこのようになったのか、その必然性が自分でもはっきり分かる時がきた。旧約聖書のエレミア書にこう書かれている。『知恵ある人は、その知恵を誇ってはならない。力ある人は、その力を誇ってはならない。富める者は、その富を誇ってはならない。誇れる者は、これを誇りとせよ、即ち、さとくあつてわたしを知っていること。わたしが主であつて、慈しみと公平と正義を行っている者であることを、知ることがそれである』」

即ち、ハーバート・テラーの言わんとする事とは、我々の言行を四つのテストに適ったものとするための奥義とは、絶対者なる神を恐れ敬う謙虚な心を持つことだということです。子供にでも解る表現を用いれば、神様が見てらっしゃいますよ。仏様の前では嘘はつけませんよと云う事です。神仏の前で申し開きの出来る言行であるかどうかを絶えず反省する謙虚なところが必要なのです。我らの先人達も「四つのテスト」に信念と勇気を持って取り組み、ロータリーに対する理解を深め、ロータリーを身に付け、友情の花を咲かせつつ、ロータリーライフを楽しまれたのです。